



# 事業の概要

## 2005年日本国際博覧会のあらし

博覧会の名称 2005年日本国際博覧会  
 開催期間 2005年3月25日から同9月25日まで(185日間)  
 会場候補地(検討中) 瀬戸市南東部及び隣接地  
 会場候補地の規模 海上地区:約540ha  
 青少年公園地区:約200ha  
 科学技術交流センター地区:約20ha  
 想定入場者数 約2,500万人



### これまでの会場候補地エリアの変遷

本博覧会は、現在までに希少な動植物や湿地などの保全のため会場候補地の面積や区域設定を変更してきました。



②会場候補地の西側部分は周辺の森林部分と連続する形で保存するとともに、希少な動植物や湿地の保全を図るため、会場エリア約540haに縮小し、主たる会場面積を約250haとし、このうちAゾーン(約150ha)については展示施設や公園を、Bゾーン(約100ha)については自然とのふれあいの場とし、残りのCゾーン(290ha)を森林体験ゾーンとしました。



③人と自然の新たな関係を生み出す会場基本計画の検討から、会場候補地(約540ha)を主要施設地区及び森林体験地区としました。



④環境負荷のより一層の低減を図ること、また、会場候補地内においてオオタカの営巣が確認されたことなどから、これまでの会場候補地約540haに加え環境保全施設として青少年公園地区約200ha、科学技術交流センター地区約20haを会場エリアとして利用することとしました。



# 環境計画の検討体制

## “人と自然との新しい関係を追求する博覧会”を目指して

博覧会協会では、人と自然との新しい関係を追求する会場計画を策定するために環境プロジェクトチーム(環境P.T.)を設けています。また、適切な環境影響評価を行うために環境影響評価アドバイザー会議を設けています。

### 【環境P.T.】

新エネルギー、省エネルギー、リサイクル技術の先進的な導入や自然を生かしたプロジェクトを企画立案しています。

新エネルギーを活用した、最適エネルギーシステムの構築を目指しています。

エネルギーシステム部会

ゼロエミッション部会

フィールド活用部会

循環型社会の構築を目指したシステムを検討しています。

自然環境の特性を生かした里山管理と自然との触れ合いを検討しています。

### 企画調整会議

【コンセプトP.T.】

【会場計画P.T.】

【観客輸送P.T.】

### 【環境影響評価アドバイザー会議】

博覧会協会が実施している環境影響評価に対し、専門的な観点から意見を頂き、適切な環境影響評価を行えるようにしています。